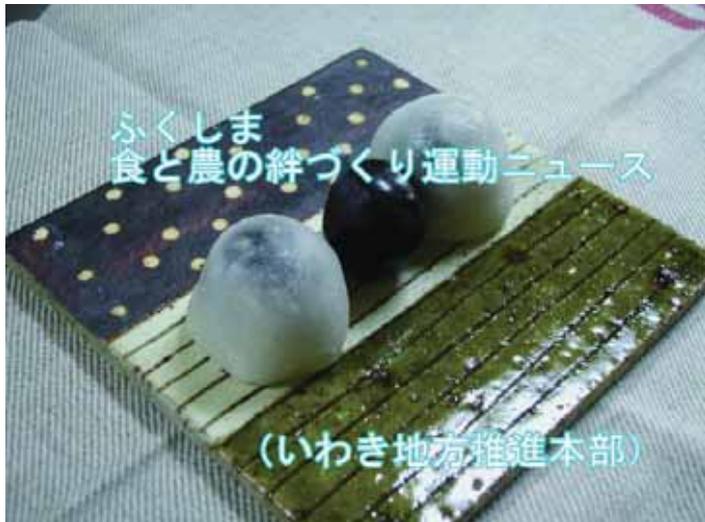


いわき農林事務所ニュース

2007年 11月号



活動状況

・経営体育成基盤整備事業（大野第一地区）における生きもの引越作戦～大野第二小学校との連携～

- ・第1回農業普及事業外部評価懇談会を開催
- ・「食の楽校」マコモタケの収穫・調理体験
- ・第1回農業普及推進懇談会を開催

トピックス

・いわき市中央卸売市場開設30周年記念式典及び市場まつり開催

・第10回福島県森林組合連合会良質材展示会

・第46回福島県優良木材展示会開催

・原木ナメコの収穫体験

活動状況

経営体育成基盤整備事業（大野第一地区）における生きもの引越作戦～大野第二小学校との連携～

経営体育成基盤整備事業（旧ほ場整備事業）大野第一地区の工事实施に先立ち、工事区域内にいる生きものたちへの影響を最小限にするため、安全な場所へ移動させる「生きもの引越作戦」を、10月1日（月）に大野第二小学校全校児童48名とともに行いました。

ほ場整備と併せて、準用河川桜川の付け替え工事を行うことから、現在の桜川周辺の生きものたちを工事エリアの外へ引っ越しました。

まず、児童それぞれがタモ網やサデ網を持ち、水の中の生きもの捕獲に挑戦しました。オイカワやウグイ、ドジョウ等の魚類のほかスジエビやモクズガニ等の甲殻類、ミズカマキリやタガメ等の昆虫類等様々な生きものを捕獲しました。中には、キンブナという比較的珍しい魚の生息も確認でき、児童たちは「すごーい！」「やったー！」等と歓声をあげていました。

捕獲が終わったら、次は引っ越しです。捕獲した生きものたちを、児童それぞれのバケツに取り分け、皆で持って移動しました。そして、児童それぞれが生きものたちの無事を祈って、工事エリアの外へ帰りました。

無事に「生きもの引越作戦」が完了したことで、工事实施をスムーズに展開できます。児童たちには、今後この地域が事業実施によりどのように整備されていくかについても注目してほしいところです。



何がいるかな？
（5・6年生）

第1回農業普及事業外部評価懇談会を開催しました

10月9日(火)、第1回普及事業外部評価懇談会を開催しました。

今回は、対象課題である「水田農業の活性化」と「農業を担う経営体の育成」に関連する現地での活動成果(三和町中寺地区の大豆栽培、同永井地区の集落営農とソバの栽培)等を踏まえ、下半期の効率的な普及指導活動に向けて御意見をいただきました。今後、来年2月に第2回懇談会を開催し、対象課題に対する評価をいただくこととしております。



現地検討
(三和町中寺地区の大豆栽培)

今年度から実施している「食彩ふくしま食育推進事業(=食の楽校)」の活動の一つであるマコモタケの収穫と調理体験を、10月15日(月)に渡辺小学校5年生とともに行いました。

これまでマコモタケの栽培体験は、「田んぼの学校」と一緒に活動を行ってきました。5月22日に田植えと一緒に植えたマコモの苗は、長梅雨にも負けず生育し、8月の暑さでどんどん株を増やし、10月の初め頃から株の根元に白っぽいマコモタケが出来はじめました。出来はじめると大きくなるのは早く、10月6日には初収穫となりました。その後も続々とマコモタケは大きくなり、この日は5年生18名が、初めて収穫を行いました。これまで指導して下さった遠藤菊男さんに鎌の使い方や刈り取り位置を教えてもらいながら収穫しました。

各自収穫したマコモタケを持って渡辺公民館へ移動し、調理体験を行いました。菊男さんの奥様である遠藤美喜子さんに作り方を教わりながら、マコモタケのホイル焼きと肉巻きをみんなで作りしました。その他、遠藤さんやサポーターの方たちが作ったマコモタケのきんぴらと天ぷら、マコモタケの酢の物などもあわせて試食しました。

初めてマコモタケを食べる児童もいましたが、その遠藤美喜子さんに作り方を教わりながら、マコモタケのホイル焼きと肉巻きをみんなで作りしました。その他、遠藤さんやサポーターの方たちが作ったマコモタケのきんぴらと天ぷら、マコモタケの酢の物などもあわせて試食しました。

初めてマコモタケを食べる児童もいましたが、そのほんのりとした甘さとおいしさにとっても満足している様子でした。自分で調理したこともあり、おいしさは倍増したのではないかと思います。

今回の収穫作業や調理体験を含めたマコモタケの栽培体験を通じ、地元で栽培されている農作物に興味を持ち、食の大切さを考えるようになってくれれば、いずれは地産地消にもつながっていくものと期待しています。



収穫の様子



マコモタケ



早速、調理体験

第1回農業普及推進懇談会を開催しました

10月29日(月)、いわき合同庁舎において、いわき市や農協、市場関係者や農業者等を構成員とする第1回農業普及推進懇談会を開催しました。

懇談会では、平成19年度普及指導計画における上半期の活動実績について説明し、下半期の活動に向けて意見をいただくとともに、効果的な活動がされるよう、関係機関の連携について意見交換をしました。



会議の様子

トピックス

いわき市中央卸売市場開設30周年記念式典及び市場まつりが開催されました

いわき市中央卸売市場の開設30周年を記念して、10月16日(火)に「記念式典」、10月28日(日)には「市場まつり」が開催されました。同市場は昭和52年に開設されて以来、福島県浜通り地方の拠点市場として生鮮食料品の安定供給を図り、中央卸売市場としての使命と役割を果たしてきました。

記念式典では、長年にわたり市場の発展に貢献した関係者や出荷者に、農林水産省東北農政局長感謝状、福島県知事感謝状、いわき市長感謝状などが贈呈され、開設30周年の節目を祝いました。

市場まつりは、普段は関係者以外は入場できない市場を開放したため、日曜日の開催と相まって多くの市民が来場しました。市消防音楽隊と幼稚園児の鼓笛隊による演奏とテープカットによる開会式典が行われ、その後、来場者は「青果棟、水産棟、花き棟」のお目当ての場所に急いでいました。「青果棟」では即売会や模擬せり、旬の野菜・果物の無料詰め放題、「水産棟」ではマグロの解体・模擬せりやサンマのつかみ取り、アクアマリン



市場まつり開会式の様子

ふくしまの移動水族館の展示、「花き棟」でもアレンジ花教室や即売会に人気があり、参加者は楽しみながら多くの商品を購入していました。また、各棟ごとに市内の出演者によるよさこい踊りや

地元芸能団による迫力ある太鼓の演奏などのアトラクションが行われ、閉会時間まで多くの来場者で賑わいました。

第10回福島県森林組合連合会良質材展示会が行われました

第10回福島県森林組合連合会良質材展示会が、10月17日(水)にいわき市遠野町にある同連合会いわき木材流通センターで行われました。

この展示会は、生産技術の改善向上と商品価値を高め、もって、福島県産材の優秀性を広く紹介すると共に、木材需給の安定に寄与することを目的として開催されました。記念式典では、同連合会の代表理事会長のあいさつに引き続き、多数の来賓を代表して福島県農林水産部長から祝辞がありました。

同展示会には、10月12日に行われた良質材展示会審査会において、林野庁長官賞に輝いた磐城造林株式会社出品のスギや、福島県知事賞に輝いた石嶋商事出品のヒノキのほか、天候不順のため例年より入荷量は少ないものの、良質材併せて約2,000m³が入荷され、県内外からの多数の買方の参加を得て盛会のもと、入札により販売が行われました。

当日は、スギ良質材の高値が前月に比べ、1,000円/m³ほど高く取引されたことから、材を出荷した人からも安心の声が聞かれました。

同審査会において入賞された方々は、10月20日に郡山市で行われた平成19年度福島県林業コンクール等表彰式にて表彰されました。



林野庁長官賞

出品者：磐城造林株式会社

樹種：スギ

長級：6m

径級：18～22cm

本数：15本

材積：3.969m³

落札価格：17,100円/m³

(4,520円/本)



福島県知事賞

出品者：石嶋商事

樹種：ヒノキ

長級：4m

径級：40～42cm

本数：2本

材積：1.345m³

落札価格：45,000円/m³

(30,260円/本)

第46回福島県優良木材展示会が行われました

福島県木材協同組合連合会、株式会社平木材市場の共催により、第46回福島県優良木材展示会が、10月26日(金)にいわき市内郷綴町にある同市場で行われました。

この展示会は、福島県産材の優秀性を広く紹介すると共に、木材の需要拡大と木材業界の一層の結束と協調を図ることを目的として、毎年秋の需要期に行われ、福島県産材のPR並びに需要促進に役立てられています。

展示会で行われた記念市には、スギ、クイヤケヤキ等の優良な素材や製品が、天候不順にもかかわらず、通常の水の約2倍の量である素材3,270m³、製品500m³が入荷されました。活気に満ちた競り売りにより、材が高値で取引され完売したことから、材を出荷した人からは、今後の相場の動向に期待ができるとの声が聞かれました。

記念式典には、木材関係者ほか約80名が出席し、多数の来賓を代表して福島県農林水産部長が、優良な木材の安定供給と需要拡大に大きな貢献をされていることに対して謝意を述べました。



優良なケヤキ材の競り売り状況

10月28日(日)、いわき市田人町荷路夫地区の有志でつくる「明神里山実行会」による原木ナメコの収穫体験が行われました。

収穫体験に参加したのは、同実行会の会員のほか、田人町子ども育成会の親子、(財)福島県きこ振興センター職員、いわき農林事務所職員などおよそ100名です。

この日収穫するナメコは、会員のほか、育成会の親子などが昨年春に植菌したもので、参加者らは今回の収穫を楽しみにしていました。

まず、収穫の「コツ」について会員から説明を受けてから、さっそくナメコの収穫を行いました。参加者らは、山林に伏せ込んだ原木に発生した大粒のナメコとそのぬるぬるする感触に驚いている様子でした。このほか、同実行会で栽培しているヒラタケを収穫したり、収穫の後にはナメコ汁を味わうなど秋を満喫していました。



ナメコの収穫体験を楽しむ参加者ら

◀ もどる

すすむ ▶

[[Top](#) [福島県トップページ](#) [いわき農林トップページ](#)]